

現代文化学サブプログラム

専門基礎科目(現代文化学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OAA3008	現代文化学基礎I	1	1.0	1	春AB	月2	濱田 真, 対馬 美千子, 廣瀬 浩司, 江藤 光紀, 山口 恵里子, 山口 有梨沙, 相馬 尚之	この授業は現代文化研究に不可欠の「トピック」を設定し、旧来の方法論を総合人間学の視点から批判的に問い直し、新たな研究領域と価値を切り開く能力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型)
OAA3009	現代文化学基礎II	1	1.0	1	秋AB	月2	宮崎 和夫, 馬籠 清子, 佐藤 嘉幸, 飯田 賢穂, 茅野 大樹, 阿部 幸大	この授業は現代文化研究に不可欠の「トピック」を設定し、具体例を多様な角度から分析し、そこに生じる問題の創造的解決の能力と新たな知・価値を創造する力を養成することを目的としている。授業は現代文化学サブプログラム担当教員によるオムニバス形式(全10回)で実施する。諸条件が複雑に絡み合う現代文化を深く研究するために不可欠となっている協働研究の状況にも触れる。受講者には全授業の最後にレポートの提出が求められる。	オンライン(オンデマンド型) オンライン(同時双方向型)

専門科目(現代文化学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABAJA1	ヨーロッパ文化学IA	2	1.0	1・2	春AB	火2	相馬 尚之	ドイツを中心としたヨーロッパ社会を対象に、多様な文化現象を扱う。受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行うことで、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJA3	ヨーロッパ文化学IB	2	1.0	1・2	秋AB	火2	相馬 尚之	ドイツを中心としたヨーロッパ社会を対象に、多様な文化現象を扱う。受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行うことで、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJA5	ヨーロッパ文化学IIA	2	1.0	1・2				ドイツを中心としたヨーロッパ社会を対象に、多様な文化現象を扱う。とりわけ本授業では、文学史上の「古典」に限らない多様なテキストの読解を進めることで、20世紀初頭のドイツ語圏文化の理解を深めることを目指す。受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行うことで、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。
OABAJA7	ヨーロッパ文化学IIB	2	1.0	1・2				ドイツを中心としたヨーロッパ社会を対象に、多様な文化現象を扱う。とりわけ本授業では、文学史上の「古典」に限らない多様なテキストの読解を進めることで、20世紀初頭のドイツ語圏文化の理解を深めることを目指す。受講者が発表を行い、それに基づいて議論を行うことで、専門文献の読解力の向上、ヨーロッパの人々が直面した社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJB1	文化現象学IA	2	1.0	1・2	春AB	火4	江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。それを通じて、対象をより多面的に把握・理解する力を養う。	西暦偶数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OABAJB3	文化現象学IB	2	1.0	1・2	秋AB	火4	江藤 光紀	この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究し月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。またそれに基づいた論文執筆についての具体的なアドバイスをなども行っていく。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJB5	文化現象学IIA	2	1.0	1・2				この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。また限られた時間内で必要な情報を要約し、的確に伝えるプレゼンテーションの力も鍛える。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJB7	文化現象学IIB	2	1.0	1・2				この授業では主にヨーロッパや日本の展覧会、博覧会、音楽堂などを対象としたテキストを講読しつつ、そうした文化的な制度や施設を通じて、文化や芸術が各国・地域で、あるいは国際間でどのように影響を与えあい、現象し、発展していくのかを考える。受講者ごとに担当箇所を決め、訳読を行いつつ進める。 また受講者は自らの関心のある課題を独自に調査・研究する。月1回程度の割合で各自の関心に沿った文献の紹介・調査研究の報告などの回を設ける。そうした議論を継続的に進めることで、受講者どうしがお互いの関心を把握し、建設的な議論を行う基礎知識を共有し、問題設定やアプローチ方法について検討しあえるような場を作っていく。そうすることによって、自らの課題を明確に意識し、より大きな論文へとステップアップさせていくためのきっかけを作っていく。特に論理的な構成力を涵養することを重視し指導する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJC1	文化構造学I	2	2.0	1・2	春AB	金4,5	佐藤 嘉幸	現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、マルクス、フロイト、アルチュセール、フーコー、ドゥルーズ=ガタリなど、19世紀から20世紀に至る社会理論、文化理論に関する重要文献を講読し、近代の社会、文化構造を批判的に分析する能力を習得することを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、批判的思考能力と論理的思考能力を習得する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJC3	文化構造学II	2	2.0	1・2				現代文化を理解するための基礎文献を講読し、文化構造の分析に必要な基礎的な理論を習得する。本授業ではとりわけ、バリバル、ランシエール、ネグリ=ハート、パトラーなど、現代の社会理論、文化理論に関する重要文献を講読し、現代の社会、文化構造を批判的に分析する能力を習得することを目的とする。本授業は演習形式で行うこととし、発表とディスカッションを通じて、現代社会、現代文化に関する批判的思考能力を習得する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJD1	文化動態学IA	2	1.0	1・2	春AB	火6	阿部 幸大	政治と文化のダイナミズムについて、戦争を介して考える。今年度は1年かけてフィリピンを扱う。使用言語は日本語と英語。可能な限り通年での受講を求める。	西暦偶数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABAJD3	文化動態学IB	2	1.0	1・2	秋AB	火6	阿部 幸大	政治と文化のダイナミズムについて、戦争を介して考える。今年度は1年かけてフィリピンを扱う。使用言語は日本語と英語。可能な限り通年での受講を求める。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJD5	文化動態学IIA	2	1.0	1・2				政治と文化のダイナミズムについて、戦争を介して考える。今年度は1年かけて9.11ならびにWar on Terrorを扱う。使用言語は日本語と英語。アカデミック・ライティングの指導も行う。通年受講推奨。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJD7	文化動態学IIB	2	1.0	1・2				政治と文化のダイナミズムについて、戦争を介して考える。今年度は1年かけて9.11ならびにWar on Terrorを扱う。使用言語は日本語と英語。アカデミック・ライティングの指導も行う。通年受講推奨。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJF1	文化批評学I	2	2.0	1・2	春AB	木5,6	対馬 美千子	この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の表象に関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる。それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、複合的理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJF3	文化批評学II	2	2.0	1・2				この授業は現代文化研究を行う上で必要である現代文化を批評するための様々な視点について学ぶことを目的としている。授業では、主に思想・批評理論・文学の文献の講読を中心に、とくに現代文化の言語やイメージに関わる諸現象について様々な角度から考察する。受講者には、授業中の発表、授業の最後のレポートの提出が求められる。それらをもとに成績評価が行われる。授業のテーマに関する幅広い知識をつけること、理解力、批判的思考力を高めることを目標とする。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJG1	文化生成学IA	2	1.0	1・2	春AB	火2	濱田 真	18世紀から現代に至るドイツにおいて文化の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヘルダー、ゲーテ、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ブルーメンベルク、ベーム、アスマン)を精読しながら考察する。特に異文化理解の問題、多文化主義と翻訳の問題、文化と言語の相互関係の問題などを取り上げて、文化生成の動態的なあり方について考える。解釈学、言語論、翻訳論の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJG3	文化生成学IB	2	1.0	1・2	春AB	火3	濱田 真	啓蒙主義、古典主義、ロマン主義の時代のドイツにおいて文化形成の問題がどのような角度から論じられてきたかを、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の社会的・思想的背景を踏まえて、特に文化と芸術、古代と近代、文化と自然といった問題について考える。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸議論を手がかりにして、多角的に考察を進める。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJG5	文化生成学IIA	2	1.0	1・2				近代ドイツを中心に、文化・自然・芸術をめぐる諸問題について、主要な思想家(ヴィンケルマン、ヘルダー、ゲーテ、シラー、シェリング等)の原典や文化理論についての研究書を精読しながら考察する。当時の文化的・思想的背景を踏まえて、特に歴史哲学、自然哲学、芸術哲学などを中心に考察を進める。解釈学、文化記憶論、感性論、芸術論の諸研究を手がかりにして、多角的に考察を行う。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OABAJG7	文化生成学IIB	2	1.0	1・2				近代から現代に至るドイツにおけるさまざまな文化論を、思想家(ヘルダー、ニーチェ、カッシーラー、ベンヤミン、ガダマー等)の原典や文化理論についての研究書(ペーム、アスマン)を精読しながら考察する。特にイメージ・図像を介した解釈の問題が文化の形成や変容にどのような位置を占めているのかという問題について、解釈学、言語論、翻訳論、形象学等の諸議論を手がかりにして多角的に考察を進める。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJH1	感性文化学IA	2	1.0	1・2	秋AB	月5	廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的な次元にまで遡って、意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的なものや生物学的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的な要素や生物学的な要素がどのように作動しているかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、デリダ、レヴィナスらの現象学、ドゥルーズの思想、シモン・ドノワのテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二世紀の知的ありかたにふさわしい方法論を模索する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJH3	感性文化学IB	2	1.0	1・2	秋AB	月6	廣瀬 浩司	本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、そこにおける意味生成の契機をどのように記述できるかを探究するため、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、文化はその生成の場においてどこまで感性的・身体的なものに基礎付けられているのか、あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、感性的・身体的な要素がどのように作動しているかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、舞踏など)論を検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJH5	感性文化学IIA	2	1.0	1・2				本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、身体的・原初的な次元にまで遡って、感覚の次元のシンボル機能の契機をどのように記述できるかを探究するための方法論を習得する。問題としては、感性和言語、社会、諸制度を感性的なものがどのように基礎付けているかを、身体に定位して考察する。あるいは反対に、すでに成立した文化形成体において、身体的・感覚的な次元の気付きを働かせるにはどうすればよいかを考える。方法的には、メルロ=ポンティ、レヴィナスらの現象学的身体論、ドゥルーズの思想、シモン・ドノワのイメージ論やテクノロジーに関する議論を批判的に検討することによって、二世紀の文化的な諸現象を分析する方法を探る。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJH7	感性文化学IIB	2	1.0	1・2				本授業では、現代文化の諸事象を取り上げ、感性的・身体的な次元にまで遡って、シンボル機能をどのように記述できるかを探究するための、具体的な事例の分析方法を習得する。問題としては、ある文化事象において感性的・身体的なものがどのように作動しているかを探究することによって、「文化」そのものの概念を実践的に刷新するような思考をどのように練り上げるかを考える。具体的には、現象学による身体論や芸術(絵画、彫刻、映画、文学作品、舞踏など)論を感性文化論的な視点から検討することによって、事例に則した分析方法を練り上げることを目指す。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABAJJ1	文化横断学IA	2	1.0	1・2	春AB	水3	馬籠 清子	様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進めていく。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点が重要となるが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時的変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJJ3	文化横断学IB	2	1.0	1・2	秋AB	水3	馬籠 清子	文化横断学IA同様、様々な国や地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てて分析を進めていく。また、現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時的変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点も同じである。一方、文化横断学IAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJJ5	文化横断学IIA	2	1.0	1・2				複数の国・地域の文化と学問・芸術領域を横断し、学際的な関係性に焦点を当てながら分析を進める。現代文化学サブプログラムの授業として、現代的・共時的視点を重視するが、それぞれの文化や学問・芸術領域のダイナミックな通時的変化や、大きな影響力を持ち続ける各種伝統などにも、丁寧に注目していく。各年度の授業開始時に、担当教員がテーマや教材等を指定するが、受講生それぞれの興味や専門を柔軟に反映させられるような演習形式で展開していく。同時にまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJJ7	文化横断学IIB	2	1.0	1・2				文化横断学IIAを発展させる形で、様々な国・地域の文化と学問・芸術領域を横断しながら、学際的な関係性に焦点を当てていく。また、現代的・共時的視点を大切にしつつ、それぞれの文化や学問・芸術領域の通時的変化や各種伝統にも丁寧に注目するという点は、文化横断学IIAと同じである。一方、文化横断学IIAよりも、受講生それぞれの興味や専門を取り入れた視点から独自の分析を展開し、それを発表や文章を通して伝えるという点に力を入れる。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJK1	芸術文化学I	2	2.0	1・2	春AB	月4,5	山口 恵里子	この授業では、人間の創造行為を芸術と人類学の接点を模索するイメージ人類学のアプローチから再考し、そのアプローチを用いた芸術文化研究の可能性を探る。この探究の根底にあるのは、「イメージが放つ効力とはどのように生み出され、受容され、そして伝承されていくのか」という問いである。この問いに答えるために、イメージ人類学が提唱されるに至った学問的背景を把握しつつ、関連文献を講読する。文献研究を通して、芸術研究と人類学を結び多様な視点を獲得し、イメージ、モノ、身体、文化、記憶、メディア、芸術等を研究する柔軟な思考法を習得する。本授業で取り上げる「芸術」は、いわゆる「純粋芸術」の作品だけではなく、日常品や、形の残らないもの、不完全なものも含まれる。それらの「日常の美学」や「不完全なるものの美学」も追究する。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABAJK3	芸術文化学II	2	2.0	1・2				イメージ人類学のアプローチを具体的な芸術文化研究に応用する。本授業では、いわゆる「純粋芸術」のみならず、美術史研究では取り上げられることのなかった装飾や人工的なモノ(宗教的な奉納物、日常品等)、ファッション、インテリア、ダンスなども考察の対象とし、そのようなものの中に潜まれるイメージの力を問題にする。文化的にも歴史的にも多様な題材を取り上げ、イメージ人類学の射程を広げる試みを行う。文化的な所産物である日常品が生み出す「日常の美学」、「完全」ではないものが持つ「不完全なもの美学」にも迫りたい。この授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJL1	イメージ文化学IA	2	1.0	1・2	春AB	木2	山口 有梨沙	この授業では、歴史上の様々な現象と無意識的及び作為的に生み出されてきた「イメージ」の関係を探究する。特に19-20世紀初頭のヨーロッパを席卷した様々な流行に着目し、大衆のなかを循環した「イメージ」とはどんなもので、それについて私たちは何を考え、何を言うことができるのかという問いに取り組む。授業の前半はKey Texts(英語および日本語)を読み、後半は各自が実際に視覚史料を用いて論考を発表する。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJL3	イメージ文化学IB	2	1.0	1・2	秋AB	木2	山口 有梨沙	この授業では「イメージ」を前に私たちは何を考え、何を言うことができるのかという問いに取り組む。特に19-20世紀初頭のヨーロッパを例に、写真や動画に加えポストカードやファッション雑誌など多様なメディアを取り上げ、歴史、表象、美術、日常などの様々な観点から考察するための思考法を習得する。授業の前半はKey Texts(英語および日本語)を読み、後半は各自が実際に視覚史料を用いて論考を発表する。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJL5	イメージ文化学IIA	2	1.0	1・2				この授業では、歴史上の様々な現象と無意識的及び作為的に生み出されてきた「イメージ」の関係を探究する。特に19-20世紀初頭のヨーロッパを席卷した様々な流行に着目し、大衆のなかを循環した「イメージ」とはどんなもので、それについて私たちは何を考え、何を言うことができるのかという問いに取り組む。授業の前半はKey Texts(英語および日本語)を読み、後半は各自が実際に視覚史料を用いて論考を発表する。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJL7	イメージ文化学IIB	2	1.0	1・2				この授業では「イメージ」を前に私たちは何を考え、何を言うことができるのかという問いに取り組む。特に19-20世紀初頭のヨーロッパを例に、写真や動画に加えポストカードやファッション雑誌など多様なメディアを取り上げ、歴史、表象、美術、日常などの様々な観点から考察するための思考法を習得する。授業の前半はKey Texts(英語および日本語)を読み、後半は各自が実際に視覚史料を用いて論考を発表する。また、この授業では学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面(オンライン併用型)
OABAJM1	社会文化学IA	2	1.0	1・2	春AB	火5	飯田 賢穂	社会文化学IAの目的は、社会の構成単位としての個人の認識能力を主題とした一次文献を精査し、コメントを書く力を養うことである。授業は、17・18世紀にフランス語で書かれた認識論の著作を事例として講読する演習形式(対面)で行われる。本年度の一次文献は、コンディヤック『人間認識起源論』(序論および第1部序盤)を予定している。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJM3	社会文化学IB	2	1.0	1・2	秋AB	火5	飯田 賢穂	社会文化学IBの目的は、社会の構成単位としての個人の認識能力を主題とした一次文献を精査し、コメントを書く力を養うことである。授業は、17・18世紀にフランス語で書かれた認識論の著作を事例として講読する演習形式(対面)で行われる。本年度の一次文献は、コンディヤック『人間認識起源論』(第1部中盤)を予定している。	西暦偶数年度開講。 対面

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OABAJM5	社会文化学IIA	2	1.0	1・2				社会文化学IIAの目的は、社会の構成単位としての個人の認識能力を主題とした一次文献を精査し、コメントを書く力を養うことである。授業は、17・18世紀にフランス語で書かれた認識論の著作を事例として講読する演習形式(対面)で行われる。本年度の一次文献は、コンディヤック『人間認識起源論』(第1部終盤)を予定している。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJM7	社会文化学IIB	2	1.0	1・2				社会文化学IIBの目的は、社会の構成単位としての個人の認識能力を主題とした一次文献を精査し、コメントを書く力を養うことである。授業は、17・18世紀にフランス語で書かれた認識論の著作を事例として講読する演習形式(対面)で行われる。本年度の一次文献は、コンディヤック『人間認識起源論』(第2部序盤)を予定している。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJN1	異文化地域学IA	2	1.0	1・2	春AB	月3	宮崎 和夫	グローバリゼーションの先駆けとなった大航海時代のスペイン帝国またはその後継国家の支配地域における、政治や経済等の大きな変動に伴う社会と文化の変容をテーマにする。専門文献の読解力の向上、社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJN3	異文化地域学IB	2	1.0	1・2	秋AB	月3	宮崎 和夫	グローバリゼーションの先駆けとなった大航海時代のスペイン帝国またはその後継国家の支配地域における、異民族や異文化との摩擦・対立をテーマにする。専門文献の読解力の向上、社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJN5	異文化地域学IIA	2	1.0	1・2				グローバリゼーションの先駆けとなった大航海時代のスペイン帝国またはその後継国家の支配地域における、社会的・文化的マイノリティに関する諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJN7	異文化地域学IIB	2	1.0	1・2				グローバリゼーションの先駆けとなった大航海時代のスペイン帝国またはその後継国家の支配地域における、年齢やジェンダーなどのアイデンティティの違いから生じる諸問題を考察する。専門文献の読解力の向上、社会的・文化的な摩擦や対立に関する知識の深化、自らの研究に関する発表・議論スキルの向上を目指す。	西暦奇数年度開講。 対面
OABAJ01	文化関係学I	2	2.0	1・2	秋AB	木4,5	茅野 大樹	本授業では、現代の多様な文化現象が個々の人間主体によって形成されるだけでなく、法、経済、メディア、言語、環境のような〈社会関係〉の網の目の中で常に相互的に条件づけられている点に着目し、その構造を批判的に捉えるための基礎的原理や方法を学ぶ。ドイツ語圏を中心とした近代西欧の哲学・文学・美学に関する古典的テキストを精読し、それらの現代文化との関わりについて議論することで、〈関係性の文化学〉の構築を目指す。本授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦偶数年度開講。 対面
OABAJ03	文化関係学II	2	2.0	1・2				本授業では、現代の多様な文化現象が個々の人間主体によって形成されるだけでなく、法、経済、メディア、言語、環境のような〈社会関係〉の網の目の中で常に相互的に条件づけられている点に着目し、その構造を批判的に捉えるための基礎的原理や方法を学ぶ。ドイツ語圏を中心とした近代西欧の哲学・文学・美学に関する古典的テキストを精読し、それらの現代文化との関わりについて議論することで、〈関係性の文化学〉の構築を目指す。本授業ではまた、学生の研究テーマに応じて研究指導も適宜実施する。	西暦奇数年度開講。 対面